MON Nara 通信

Numéro 20　Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会　DÉCEMBRE 2024 12 月

これからの催しご案内

第 65 回日仏シネクラブ例会案内：アラン・ドロン追悼①『恋ひとすじに』

✤日時：2025 年 2 月 23 日（日）13:30～17:00　✤会場：奈良市西部公民館 5 階視聴覚室（予定）
✤プログラム：『恋ひとすじに』（Christine, 1958 年, 109 分）　✤原作：シュニッツラー『恋愛三昧』（1894）
✤監督：エール・ガスパール＝ユイ　✤参加費：会員 200 円、一般 300 円
✤問合わせ：Nasai206@gmail.com　tel. 070-1731-0230（淺井）　✤予約不要

✤2024 年 8 月に 88 歳で亡くなったアラン・ドロンは、世紀の二枚目俳優として知られ、数多くの映画作品に出演した大スター。映画だけでなく私生活で浮名を流したことでも知られています。今回は、そんな彼がロミー・シュナイダーと出会い、二人が恋に落ちるきっかけになった作品『恋ひとすじに』を紹介します。当時、ロミー・シュナイダーは「プリンセス・シシー」シリーズでヨーロッパ中に人気を博したスター女優だったのに対して、アラン・ドロンは駆け出しの若手俳優。そのことは、出演料がロミーの 7500 万旧フランに対しドロンが 30 万旧フランという数字によく表れています。映画の舞台は

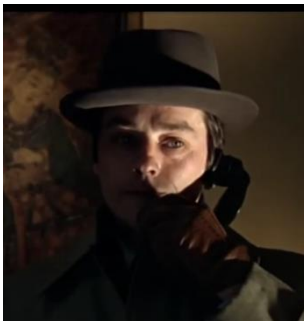
1906 年のウィーン。若い少尉フランツ（ドロン）は、男爵夫人レナ（ミシュリーヌ・プレール）との不貞関係を重荷に感じて、友人のテオ中尉（ジャン＝クロード・ブリアリ）と酒場に出かけ、歌手志望のクリスチーヌ（ロミー・シュナイダー）に出会います。まだスターの輝きはないけれども存在感を示すドロンとお姫様のように可愛いらしく美しいロミー。ふたりの恋の行方は…？　原作は森鴎外の翻訳でも知られるシュニッツラーの『恋愛三昧』。映画では 19 世紀のウィーン社会の風俗も垣間見ることができます。（淺井直子）

隋想　私のアラン・ドロン

実は、アラン・ドロン作品は、シネクラブで見た『パリの灯は遠く』『仁義』『サムライ』『山猫』以外には、『太陽がいっぱい』、ポーが原作ということで見た『世にも怪奇な物語』（ちなみに、私の好きなイヴリー・ギトリスが怪老人役で出ていた）、マンディアルグが原作なので見た『あの胸にもういちど』ぐらいで、私にこのコラムを書く資格があるのかどうか。

ひとつ思い出を書けば、新入社員で営業所に配属されたとき、内務の女性がアラン・ドロンのファンで、私が大学でフランス語を学んでいたことを知って、ドロンについて書かれたフランス語の文章の翻訳を頼まれ、寮に持ち帰って辞書を引きながら悪戦苦闘したのを覚えています。当時は、それほど女性の人気が高かったのでした。

肝心の映画の話ですが、フランス映画には、フランス演劇の伝統からか、概して会話の饒舌な作品が多いような気がするなかで、彼の出演する映画は、寡黙なところが大きな特徴だと思います。極端なところでは、『サムライ』の冒頭、10 分近く延々とセリフのないシーンが思い浮かびます。黙って、帽子の縁に手を置いたり、コートの襟を立てたり、唇の端に笑みを浮かべるだけ。セリフがあったとしても、ほとんどワンフレーズ。沈黙の使い方の巧みさ、一つの仕草に決まった意味をもたせる様式的な美しさなど、私の数少ない映画経験からして、日本映画の影響があるように思います。実際、アラン・ドロンは「男は黙って〇〇」の三船敏郎のファンだったそうです。そしてこれはまた映画ならではの特徴が最大限生かされているとも言えましょう。演劇と比較してみると、映画の特徴は歴然としていて、時間空間が自由に設定できることや、せりふの言い回しが自然体であること、音楽が効果的に使われることなど、いろいろありますが、やはり表情のクローズ・アップが最大の武器で、ここにセリフが少なくても成り立つ要因があると思います。アラン・ドロンの役づくりもさることながら、メルヴィルやロージーなど監督の手腕によるものでしょう。これまで見た作品では、『パリの灯は遠く』がもっとも好きな作品です。今回の『恋ひとすじに』もとても楽しみです。（杉谷健治）



『パリの灯は遠く』のアラン・ドロン

2025 年度総会のお知らせ

奈良日仏協会の 2025 年度総会を下記のとおり開催する予定です。日頃の協会活動へのご感想やご希望を話し合う良い機会ですので、ぜひご参加ください。懇親会ではミニコンサートを鋭意企画中ですので、楽しみにしていてください。詳細案内は 1 月下旬にお届けします。

✤日時:2025 年 2 月 11 日(日)14:40～17:15

✤会場:野菜ダイニング「菜宴」(奈良市小西町 19 マリアテラスビル)

活動記録

☆10 月 27 日(日):ガイドクラブ 2024「霊山寺バラ園散策」(詳細報告は、来年の Mon Nara 2 月号をご覧ください)

☆11 月 24 日(日):奈良日仏協会創立 30 周年記念祝賀会 会場:奈良ホテル 大和の間
(詳細報告は、同封の創立 30 周年記念誌の報告をご覧ください)

≪2024 年度第 5 回理事会報告≫…事務局

☆日時:2024 年 11 月 14 日(木)15:00～16:55。 ☆場所:野菜ダイニング「菜宴」。 ☆出席者:三野、浅井、中辻、藤村、髙松、薗田、杉谷。 ☆議題 **1.** 2024 年度会費納入額・会員数。 **2.** 前回理事会(9/19)後の活動:秋の教養講座「Nara mon Amour(奈良 わが愛)」(9/22)、第 64 回シネクラブ「ルイス・ブニュエル特集②」(9/29)、ガイドクラブ 2024「霊山寺バラ園散策」(10/27) **3.** 今後の行事:2025 年総会(2/11)、第 65 回シネクラブ「アラン・ドロン作品」。 **4.** 30 周年記念行事:祝賀会(11/24)、記念誌。 **5.** Mon Nara、Mon Nara 通信。 **6.** 次回理事会:2025 年 1 月 16 日(木)15:00～16:30 野菜ダイニング「菜宴」。

後記 ☆Mon Nara 通信 12 月号と奈良日仏協会創立 30 周年記念誌をお届けします。☆30 周年記念誌は、30 年の歩みを年次別と活動分野別で振り返るという編集意図のもと、浅井直子副会長が、過去の印刷物「POT-POURRI」や「Mon Nara」バックナンバーの現在入手可能なものから情報を収集し、また現会員、元会員にインタビューを行なって作成した労作です。30 年も経てば、創立当時の会員も少なくなり、また記憶も定かでなくなり、往時がすべて曖昧模糊とするなかで、貴重な記録集となっています。私も校正のお手伝いをしながら、奈良日仏協会が創立される以前の準備活動を含め、知らなかったことが数多くあり、これまで先人たちがいかに多彩かつ活発に活動に取り組んで来られたかがよく分かりました。☆先月 24 日には、会員、一般を含め 55 名が参加し、創立 30 周年祝賀会が行なわれましたが、会長副会長の挨拶や創立時からの会員のスピーチ、またテーブルでの会話からも、そうした歴史の重みがひしひしと感じられました。奈良ホテルという奈良を代表する歴史あるホテルで、着席での落ち着いた会となり、混声四部合唱やピアノ演奏にシャンソンと、30 周年を祝うにふさわしい会だったという声を多くいただきました。☆三野会長の挨拶では、会員一人一人のフランスへの愛と情熱が核となり、その小さな活動の積み重ねによって、これまでの 30 年の継続が果たされてきたが、われわれの世代はそれを次の世代へ伝えていく使命があるといった趣旨の発言がありました。来年から 31 年目の活動に入ります。日本社会全体の傾向を反映して、日仏協会も高齢化が着実に進んでおりますが、活動に積極的に参加いただける会員の皆さまをお待ちしております。またご友人への入会の勧誘もよろしくお願いいたします。(杉)

◆当協会では会員を募集しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。

◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara 2 月号は 1 月 31 日が原稿締切日です。

◆会員のみなさまで「Mon Nara」(2 月、6 月、10 月発行)、または「Mon Nara 通信」(4 月、8 月、12 月発行)にチラシ同封を希望される方は、1)内容がフランスに関わるもの、2)本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2024 年 12 月 numéro 20

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : http://www.afjn.jp E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者:三野博司